



# 日本弁理士会副会長 立候補のご挨拶

杉村 憲司

この度、PA会からご推薦を頂き、令和2年度の日本弁理士会副会長に立候補させて頂くことになりました。どうぞよろしく願いいたします。

立候補に当たり、簡単に自己紹介をさせていただきます。

## 1. 弁理士になるまでの日々

私は、早稲田大学 理工学部建築学科を卒業、引き続き、早稲田大学大学院 理工学研究科建築工学専攻を修了いたしました。その後、縁あって英国に留学し、言葉のハンディもあり、勉強は本当に大変でしたが、Architectural Association Schoolのディプロマコースを無事に修了いたしました。修了後には、英国建築士試験に挑み、RIBA（英国王立建築家）の資格を取得しました。そして、これも不思議なご縁に恵まれ、欧州の建築界を代表する人物となった英国人建築家ノーマン・フォスター氏に出会う機会があり、フォスター設計事務所に勤務させてもらいました。数年後には、香港のHSBC（香港上海銀行の本店ビル）の大型プロジェクトに、主任設計メンバーの一人として参加いたしました。設計の仕事が大変面白く、あっという間に2年間を過ごしました。

このように、欧州とアジアで家族とともに海外生活をし、仕事をしてきました経験は、大変なことも多くありましたが、私の人生の貴重な経験であり沢山のことを学ばせてもらいました。

祖父の時代から特許事務所を営んでおりました関係で、ある時、難関の弁理士試験の受験を決心し、とても苦勞をいたしました。合格することが出来ました。今は、特許法律事務所の代表弁理士をして

おりますが、若い頃からのご縁には心から感謝をしながら仕事をする日々であります。

## 2. PA会と日本弁理士クラブでの活動

PA会では、様々な分野を極められた先生方から、日頃より、色々と教えて頂くことも多く感謝しております。平成27年には、PA会の幹事長を務めさせて頂きました。多くのPA会員の先生方に支えて頂き、例えば、PA会の柱ともいえる研修では、米国特許弁理士の米国人先生方に、最前線の米国特許実務について講義をして頂きました。また、谷義一先生をお招きし、「日本におけるソフトウェア特許～その特許取得と権利行使～」というテーマで、貴重なご講演をして頂き、大変好評でございました。さらに、平成27年度は、PA会中部部会 創立20周年の記念すべき年であり、関係の皆様方のひたかたならぬご努力により、素晴らしい記念祝賀会と記念講演会を執り行うことができましたことは、とても良い思い出であります。

翌平成28年には、日本弁理士クラブの副幹事長を務めさせて頂きました。慶弔・祝電電報、ボウリング大会及び後期の協議委員会を、副幹事長として担当いたしました。2年に一度の会長選の年ということもあり、協議委員会、政策委員会の活動が非常に活発でありました。年末には高田馬場でボウリング大会を開催し、沢山の先生方が親睦を深め合うサポートをさせて頂きました。平成29年は、関係の先生方のご支援を頂き、PA会協議委員長を務めさせて頂きました。

### 3. 日本弁理士会等での活動

日本弁理士会では、平成 26 年には、PA 会からご推薦を頂き、常議員に当選させて頂きました。選挙応援団長には、浅村皓先生にお引き受け頂き、力強い応援を賜りました。また、各委員会活動におきましても、PA 会のご推薦を頂き、研修所運営、国際活動センター、防災会議、組織改革特別委員会等に参加させて頂きました。特に、防災会議では、委員、副議長を務め、平成 28 年度には議長を務めさせて頂きました。この間、いくつかの地震や大雨がありましたので、関係の先生方と一緒に、安心・安全をいかに確かなものとしていくか頭を悩ませました。普段から弁理士の先生方同士のネットワークを築いておくことの大切さを実感しました。

その他、平成 27 年度から、FICPI Japan（国際弁理士連盟日本協会）副会長を務めさせて頂いております。世界の弁理士の先生方との絆を深めていけるよう少しでもお役に立てればと思っております。

### 4. 最後に

現在、世界は、IoT、AI、ビッグデータを活用したイノベーションが期待される変革の時代になっております。このような新しい時代において、新しいビジョンを構築するためにも、特に事務所弁理士と企業弁理士が一層交流して、視野を広くしていくことが大切に思います。

今回、私の応援団長には、大西正悟先生にお引き受け頂き、とても心強く思っております。副会長に当選させて頂いた暁には、知財と弁理士の明るい未来を切り拓くべく、微力ではございますが、情熱と誠意をもって、精一杯努力して参りたく思います。皆様方のご指導ご鞭撻を賜りたく、何卒よろしくお願い申し上げます。

（文書責任者：渡邊伸一）

